

# 授業ノート1 人類の始まり

KYOICHI NOJIMA・SATURDAY, 23 APRIL 2016



歴史の最初の授業。

箱の中から、これを取り出す。この瞬間が楽しくて、ken が小さかった頃、紙粘土で作ったのが左のアウストラロピテクス。右の現生人類=クロマニヨン人はネットで1万円ほどで購入した。



現在の頭骨模型は医療用で、あごの嚼む力(バネで再現)、内部構造(頭部が外せる)など、大変精密でこれはすごい。特に眼科から視神経が前頭葉につながっているところは、授業の核になる。

この2つの頭骨を手を持って、腹話術のように授業をする。「みなさんこんにちわ」頭を下げてあいさつさせる。

アウストラロピテクスは、女性の全身骨格が見つかっていて「ルーシー」と名付けられている。発掘した考古学者がビートルズの”Lucy’s in the sky with diamonds”を歌いながら掘っていたら全身が出てきたから、この名前になったんだよ、と教えてあげる。頭骨を少し斜めにして「ルーシーで一す、よろしくね!」とやるとなかなかかわいらしい。

中学に入って最初の授業、こういう出会いを考えることが楽しい。



地球 46 億年の歴史から話を始め、生命の誕生、古生代、中生代、そして新生代とイラストで図示し、種の多様な進化の最後に、ヒトとその他の類人猿(チンパンジー・オランウータン・ゴリラ)がどこで分岐したのかを授業の課題にする。

教科書を読み、猿人(アウストラロピテクス) 原人(北京・ジャワ)そして新人(クロマニヨン)の流れと広がりを確認する。



3つの人骨の進化を、黒板のイラストで比較する。あごの後退と脳の容積拡大の2つを押しさえる。特にあごの後退は、柔らかい食事の普及する今も進行中で、歯の矯正が増えているのはそのためということも。



脳の容積拡大は、現人類が極大で、赤ちゃんは骨盤の限界をすり抜けてくることも話しておく。

このような話をしたあと、700 万年前に起こった、ヒトとサルの分岐は何

だったのかを考える。どんなのがヒトになったの？

教室は楽しいざわめきになる。これを拾い上げ、会話の交わしあいにしていくのが大切なコツ。頭のいいのがヒトになったの？じゃあ、テストで30点以下はサルなの？えー！という風に。

二本足で立ったから、といういわゆる正答が出てきても、すぐには終わらないでどうということなの、と問い返す。自分の頭で本当にわかった！という思いに至らせるには…

切り札の発問…「みんなはひとりひとり、ここにいる人は誰でも、その分岐をたどって人になる経験を今までにやってきているんだよ。それはいつだと思う？」

3歳？違うもつと前。1ヶ月？ちょっと早すぎるな。

ここでかわいいアウストラロピテクスの頭骨を赤ちゃんに見立てて演技させる。



寝たままの赤ちゃんは、サルと同じ。3ヶ月で寝返りしてハイハイを始めても、まだ人らしくないし、言葉も少ない。急に言葉が発達して、顔の表情も豊かになって、おでこも大きくなるのはどんなときだと思う？

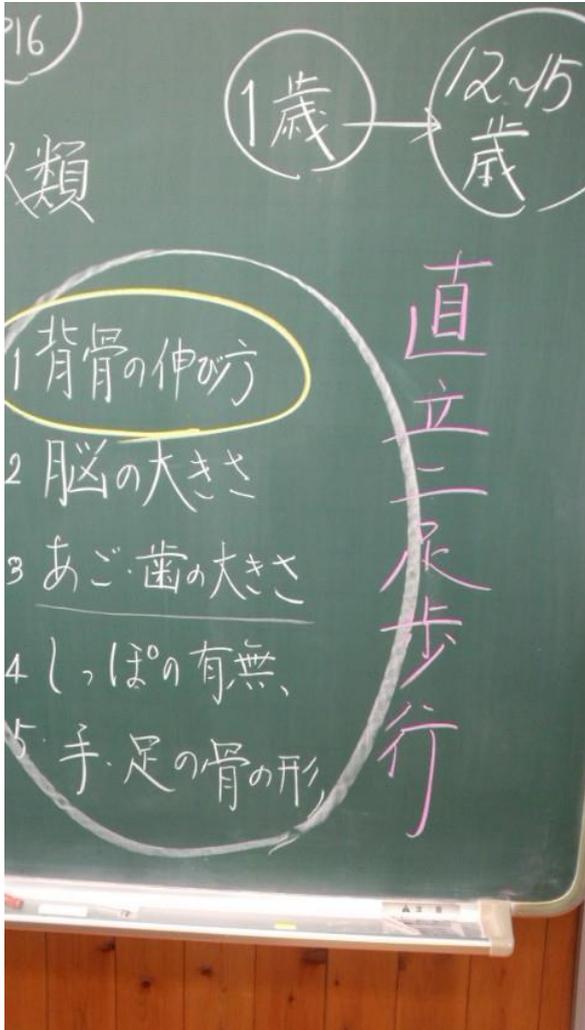
そうだ！2本足で立って歩く！

そう、1歳のころ。

アウストラロアカちゃんが、生徒の机を覗くようにつかまり立ちしてよちよち歩いて行く。あ、こんなものがみえる。首を回転して後ろも見る。

あれを触ってみたい、これは何なんだろう、と好奇心が手と足の行動と連動する。これが直立二足歩行の意味なんだね。

ここで、クロマニヨン人の頭骨を明けて見せ、視神経が前頭葉の発達につながっていることを説明する。



ヒトになるというのは、最初からじゃない。当たり前のように見えるけれど奇跡のような成長の連続なんだね。人は2回大きく成長します。1度目がこの1歳の時。2度目はいまだよ。12歳からの思春期は、体が一挙に成長し、本能も大きくなる。今度は、1歳とは違って、自覚してその本能をコントロールする理性を前頭葉に身につけなければ行けないんだ。失敗すると、サルに様な状態に戻っていく。(ここで、不良のまねをする)

2度めの枝分かれで大切なことは何でしょう。先生の観察だと、実はそんなに難しくない。答えは・・・話を聞く姿勢。背筋をぴんと伸ばして、前を向いて正しい姿勢で座る。ここでも、直立二足歩行なんだよ。みんなはできているかな。これからも大丈夫かな、こう投げかけて授業を終わる。

コメント 素晴らしいの一言です。その武器の数々。